

- 1 日時 令和元年 6月 3日(月) 5校時
- 2 学年 第2学年 12名
- 3 単元名 「やぶれたレシートの謎 本当の代金をつきとめろ！」～たし算とひき算の筆算～
- 4 単元について

○ 本単元は、学習指導要領第2学年の内容A式と計算で次のように示されている。

(2) 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。

ア 2位数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

イ 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

これまでに児童は、第1学年の「たし算」「ひき算」、第2学年の「たし算とひき算」で(2位数)±(1位数)や(2位数)±(何十)の計算を暗算でしている。また、繰り下がりのある(2位数)−(1位数)の計算もできている。

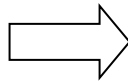
本単元では、筆算の形式について初めて学び、たし算やひき算ができるようにするとともに、加法の交換法則、たし算とひき算の相互関係をもとに、それらの答えの確かめをできるようにすることをねらいとしている。

そこで、本単元では、(2位数)±(2位数)の筆算ができる児童を育てることをねらいとする。また、繰り上がりや繰り下がりの計算方法を説明し合う活動を通して、児童自身が筆算の方法を考え、完成させるようにしたい。

また、単元名を「やぶれたレシートの謎 本当の代金をつきとめろ！」とする。合計金額の部分がちぎれたレシートを提示して、いくらなのかつきとめてほしいという設定にする。また沼田小探偵事務所の2年生に依頼が来たこととし、なりきらせるなどして、学習意欲を高めたい。

児童の実態・課題

- (十何) − (1位数) の繰り下がりのひき算や(1位数) + (1位数) の繰り上がりのたし算は概ねできている。
- 繰り下がりのひき算の問題を解く際に、計算速度が速い児童と遅い児童の間で時間の差がある。
- 繰り下がりのひき算のとらえ方に違いがみられる。
- レディネステストの結果
 - ・ 計算棒を使った(何十) ± (何十) の計算
・・・ 7/12
 - ・ 2位数の構成要素
・・・ 10/12
 - ・ 繰り上がり、繰り下がりのある計算
・・・ 10/12



めざす児童像

- 既習事項を基にして、筆算の仕方を見つけることができる児童
- 筆算の方法を図、式、言葉等で説明することができる児童
- 繰り上がりや繰り下がりに気を付けて、手際よく計算できる児童

本単元で育てたい資質・能力

①課題発見・解決力	○
②表現力	◎
③コミュニケーション能力	○
④チャレンジ精神	
⑤自らへの自信	



手立て

- 計算棒を実際に操作することで、繰り上がりや繰り下がりの計算を視覚的にとらえられるようにする。
- 「まず」「次に」「最後に」など、順序を表す言葉を使った説明の仕方を練習させておく。
- 足す数と足される数、ひく数とひかれる数が、式の中のどの数を指しているのかをはっきりさせておく。
- 一の位から計算することの良さに気付かせ、筆算では必ず一の位から計算させるようにしておく。

使わせたい算数用語及び表現

筆算 足す数 足される数 ひく数 ひかれる数

5 単元の目標

- ・(2位数) ± (2位数) の筆算の仕方を理解し、計算することができる。
- ・順思考の問題場面をテープ図に表すことができる。

【学習指導要領の項目 A-(2)-ア・イ・ウ】

6 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
・ひっ算の良さに気付 き、活用しようとする。また、答えの見当 を付けてから計算し ようとする。加法及び 減法に関して成り立 つ性質を調べ、計算の 確かめにいかそうと する。	・十進位取り記数法の仕 組みをもとにして、 (2位数) ± (2位数) のひっ算の仕方を考 えることができる。	・(2位数) ± (2位数) のひっ算を、一の位 から順に、繰り上が りや繰り下がりに気 を付けて手際よく計 算できる。 ・順思考の問題場面 をテープ図に表すこ とができる。	・ひっ算の仕方を知り、 (2位数) ± (2位数) の計算の仕方で、説明 することができる。

7 指導と評価の計画（全10時間）

小 単 元	時 間	学習活動	評価					
			関 ・ 意	考 え 方	技 能	知 ・ 理	評価規準	評価方法
た し 算	1	・(2位数) + (2位数) で繰り上がりのない 筆算 表現力	○	○			・繰り上がりのないたし算 の仕方を考えることが できる。	発言・ノート
	2	・(2位数) + (2位数) で一の位に繰り上が りがある筆算 課題発見・解決力		○			・繰り上がりのあるたし算 の筆算の仕方を考える ことができる。	発言・ノート
	3	・加法の交換法則を用 いた答えの確かめ 表現力		○	○		・答えの確かめの仕方を考 えることができる ・交換法則を用いて、たし 算の答えを確かめるこ とができる。	発言・ノート
	4	・(2位数) + (2位数) の筆算の練習とその 適応題 課題発見・解決力			○	○	・(2位数) + (2位数) の筆算で答えを求める ことができる。	発言・ノート
6 (本 時)	5	・(2位数) - (2位数) で繰り下がりのない 筆算 表現力		○	○		・繰り下がりのないひき算 の筆算の仕方を考える ことができる。	発言・ノート
	6	・(2位数) - (2位数) で繰り下がりのある 筆算 表現力		○	○		・繰り下がりのある筆算の 仕方を考えることがで きる。	発言・ノート
	7	・たし算とひき算の相 互関係に着目した答 えの確かめ 表現力		○	○		・(ひく数) + (答え) = (ひかれる数)となっ ていることに気づき、それ をもとにひき算の答え の確かめをしようとし ている。	発言・ノート
	8	・(2位数) - (2位数) の筆算の練習とその 適応題 課題発見・解決力			○	○	・(2位数) - (2位数) の筆算で答えを求め ることかできる。	発言・ノート
	9	・加減の問題のテー プのかき方 コミュニケーション能 力		○	○		・問題文を読み、数量の関 係をテープ図に表すこ とができる。 ・テープ図をもとに考え、 問題を解くことができ る。	発言・ノート

10	・足し算と引き算の複合問題 課題発見・解決力			○	○	・問題文から、たし算と引き算のどちらを使えばよいか考え、答えを出すことができる。	発言・ノート
----	----------------------------------	--	--	---	---	--	--------

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・(2位数) - (2位数) で繰り下がりのある筆算ができる。

(2) 観点別評価規準

繰り下がりのある筆算の仕方を考えることができる。【考え方】

繰り下がりの意味を理解し、繰り下がりのある引き算の筆算ができる。【技能】

(3) 準備物

児：位取りシート、計算棒

教：掲示用位取り表、計算棒

本時の学習を通して育てたい力

○繰り下がりがある引き算の筆算の仕方を説明することができる。

○繰り下がりがある引き算の筆算ができる。

(4) 学習の展開

過程	学習活動 主な発問 (◎) と予想される 児童の反応 (・)	指導上の留意事項 (・) と「努力を要する」 状況と判断した児童への支援 (●)	評価規準 (評価方法)
つかむ	1. 問題を読み、これまでの違いから課題意識を持ち、めあてをつかむ。	・前時で学習した引き算のしきを提示しておく。	
見通す	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">53 - 26 をひっさんでしてみましよう</div> ◎今までの筆算と何が違うでしょう <ul style="list-style-type: none"> ・1の位が計算できない。 ・繰り下がりがある。 		
自力解決	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">一のくらいがひけないときのひっさんのしかたをかんがえせつめいしよう。</div> 2. 自力解決をする。 ◎計算棒を動かしながら、筆算の仕方の説明を考えましょう。	・位取りシートと計算棒をそれぞれ使わせ、どのような操作になるのかを調べさせる。 ●繰り下がりの操作に困っている児童に対しては、どこからならひくことができるかを考えさせる。	

<p>練 り あ い</p>	<p>◎計算棒の動きを式や言葉を使って説明しましょう。</p> <p>3. 考えを発表し合う。</p> <p>まず一の位を計算します。3 - 6はできないので、十の位から1繰り下げます。13 - 6 = 7 次に十の位を計算します。4 - 2 = 2 一の位が7、十の位が2だから、答えは27です。</p> <p>☆十の位を計算するときは、1繰り下がっているのでひかれる数が4になっています。</p>	<p>・「まず」「つぎに」を使った説明を考えさせる。</p> <p>・自分の考えが早く書けた児童に対しては、ホワイトボードにその考えを書かせて、発表させる。</p> <p>・重要な語句に線をひき、まとめる際の手掛かりとさせる。</p>	<p>繰り下がりのある筆算の仕方を考えることができている。</p> <p>【考】(発表・ノート)</p>
<p>ま と め</p>	<p>4. まとめる</p> <p>☆一のくらいがひけないときは、十のくらいから1くりさげると、けいさんすることができる。</p>		
<p>適 用</p> <p>ふ り か え り</p>	<p>5. 練習問題を解く</p> <p>◎練習問題を解きましょう</p> <p>6. 本時の振り返りをする。</p>	<p>・①43 - 7 ②96 - 38 ③80 - 24</p> <p>・本時の学習を振り返り、分かったことや、頑張ったことを書かせる。</p>	<p>繰り下がりのあるひき算の筆算ができる。【技】(ノート)</p>

9 板書計画

6/3 ひきざんのひっさん

㊦ 53-26をひっさんで
してみましょう。

- ・一のくらいがけいさん
できない
- ・くりさあがりがある

㊧ 一のくらいがひけないときの
ひっさんのしかたをかんがえ
せつめいしよう。

	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0	
-	2					6
	2					7

	5	3
-	2	6
	2	7

㊨ 一のくらいがひけない
ときは、十のくらいから
1くりさげると、けいさ
んすることができる。